

研究に関するご協力をお願い

福島県立医科大学産科婦人科学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2024年 4月

福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 藤森 敬也

研究課題名

生殖補助医療での妊娠症例における周産期合併症検討のための後方視的研究

研究期間

2024年4月 ~ 2025年4月

研究の目的・意義

生殖補助医療 Assisted Reproductive Technology ART とは、体外受精・胚移植、顕微授精、凍結胚・融解移植のことを差し、不妊治療において行われる技術の一つです。2021年には日本において ART によって出生した児は11人に1人となっており、その数は年々増加しています。ART は拳児を望む患者にとって必要不可欠な手技である一方で、自然妊娠と比較すると妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤など母体・胎児の両者を脅かす可能性のある周産期合併症のリスクが上昇すると報告されています。近年 ART 後妊娠の周産期合併症についての報告が増えてきているものの、どのような症例に合併症がより起こりやすいのか、ART で妊娠成立した症例についてどのような点に注意して管理を行うべきなのか一定の見解は得られていません。

本研究では福島県立医科大学において ART を行い妊娠した患者さんについて、どのような転帰をたどったのかカルテから得られる情報をもとに検討していき、ART 後妊娠における周産期合併症発症のリスクとなり得る項目を見つけることを目的としています。

本研究において周産期合併症発症のリスク因子が明らかになれば、不妊治療に関わる医師・周産期医療に関わる医師の両者がリスクを認識した上で診療を行うことができるようになると考えています。リスク因子を把握することは、不妊治療の場において合併症を起こさないような治療方法を選択することにつながり、周産期医療の場においては合併症を減らすための妊娠管理を行うとともに、分娩前に十分な準備を行うことで合併症が起きたときに適切な治療を行うことを可能にします。また、本研究の結果を用いて ART 後妊娠のリスクを正しく周知することで、早い段階での適切な医療機関での管理につながると考えています。

研究対象となる方

2014年1月～2022年12月までの間に福島県立医科大学において生殖補助医療による不妊治療を受けた方の中で、妊娠反応陽性となった18歳以上の方（生化学的妊娠を除く）

が対象です。

研究の方法

対象となる方のカルテ上の診療情報から年齢、BMI、これまでの妊娠出産歴、既往歴、不妊治療の内容、分娩結果などの項目についてデータを収集します。

試料・情報の利用を開始する予定日

2024年4月1日

研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学産科婦人科学講座であり、研究責任者は産科婦人科学講座 藤森敬也です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 竹之下誠一であり、それらの情報は福島県立医科大学産科婦人科学講座で利用し解析を行います。

他の機関などへの試料・情報の提供について

収集した情報に関しては他の機関へ提供することはありません。

この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 担当：大越 千弘

2024年 1月 15日作成(第1版)

電話 : 024-547-1290

e-mail : chihiro.oko@gmail.com